

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年7月1日 No.31

菊の定植



先日の緑化委員会に引き続き、4年生が菊の定植を行いました。4年生は鉢ではなく畑に植えました。今後、育てた菊を使って、「菊人形」を制作し、「人形小路菊まつり」に展示します。

この日は苗の定植を行い、その後、菊人形の歴史について吉浜まちづくり協議会のみなさんに教えていただきました。

上の写真の最後の2枚、左の苗と右の苗。左の方が元気に見えます。まち協の方によると、左は購入した苗で、右は育ててきた苗なんだそうです。それを聞いていたある男の子が、「でもかわいがって育ててあげると最後は同じ菊が咲くんだよね」とすかさず聞き返していました。まち協の方も、「そのとおり！愛情たっぷり注いであげてね」と答えておられました。「温かい言葉をかけた花は綺麗に咲き、暴言を浴びせた花はいまいち…」という実験結果を聞いたことがあります。人間も同じだなあとおつくづく感じます。4年生がどんな菊の花を咲かせるのか、楽しみです。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年7月3日 No.32

中部電力ミライズ×FC刈谷「FC刈谷夢教室」



中部電力ミライズとFC刈谷のコラボによる「FC刈谷夢教室」に6年生が参加しました。

中部電力ミライズからは電気について教えていただき、エアコンの効果的かつ健康にもよい使用法を学びました。

FC刈谷からは監督である茂庭照幸さんに講義をしていただきました。茂庭監督からは、プロサッカー選手となり、ワールドカップ出場を果たすなど、夢を叶えた自分にも辛いことや苦しいことがたくさんあったことを紹介していただきながら以下の2つの熱いメッセージを受け取りました。

☆「FC刈谷夢教室」とは

未来ある子どもたちに向けて、夢や目標をもつことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さ、素晴らしさ、失敗や挫折に負けない心の強さを身につけるために、子どもたちと語り、触れ合いながら進めていく「FC刈谷夢教室」。

幼少期から思い描いたサッカー選手になる夢を叶え、W杯にも出場経験のある茂庭照幸監督が先生となり『夢』をテーマにした授業を行い、子どもの心の教育に貢献していくプロジェクトです。

<三河ベイフットボールクラブ株式会社HPより>

- ①人は心に「天秤」をもっていて、それを使って自分の基準で物事を測る。心の天秤は自分の思いの強い方へ振れる。自分で決めることでその言葉や行動に責任が生じる。自分が決めた中での成功や失敗と、誰かに決められた中での成功や失敗とは成長が全く違う。
- ②心を開き、自分と向き合うことが大切。

子どもたちのこれからの人生の糧になったでしょうか。教室終了後には、監督にサインをもらい、その後、会場の片付けや戸締まりに走る子どもたちでした。茂庭監督とのやりとりや今日の講義の雰囲気、終了後の様子など、最高学年としてすてきな姿を見せていた6年生でした。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年7月5日 No.33

本の貸し出しが始まりました



長寿命化工事を終えた図書室。心地よい木の香りが漂い、リラックスして読書ができる空間になりました。図書の分類や配架に時間がかかりましたが、今月から貸し出しが始まり、図書室はたくさんのお子もたちで賑わっています。借りる子だけでなく、木の机に座って読書をしている子もいます。「怖いお話の本はどこですか?」「理科の実験の本はありますか?」など、目を輝かせながら聞いてくる子がたくさんいました。そんな時に、そばにいた上級生が、「それだったらこっちだよ」と下級生に教えてくれた場面もありました。

「一冊の本との出会いが私の生き方を変えた」という話も聞いたことがあります。子どもたちにはいろいろなジャンルの本を手にとってもらい、これからの人生にプラスになるような一冊を見つけたいと思います。

保護者のみなさんが影響を受けた本はありますか。そんな本について子どもたちに話していただけたら幸いです。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年7月9日 No.34

俳句

5月の人形小路花まつり。これに合わせて「俳句コンテスト」が行われました。吉浜小学校の関係では次のみなさんの作品が入賞作品として選出されました。おめでとうございます。

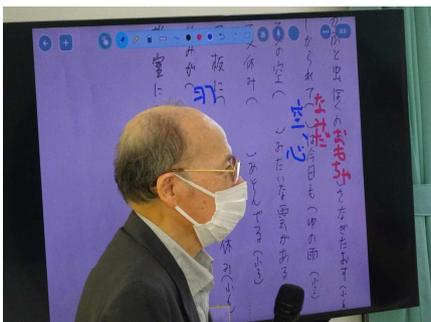
◇花まつり俳句コンテスト (選・句評：中村正幸先生)

佳作 4年 松田 季子 おしゃかさまへとどいてほしい花のにおい

*すばらしい花の匂いをおしゃか様とともに楽しみたいのである。自分の喜びを他の人にも感じてもらいたいものだ。

入選 3年 田岡 彩芽 おしゃかさま見ているんだなわたしたち
1年 阿部 一太 あまちゃかけおふろみたいできもちよさそう
4年 林 小夜 白象がたくさんはこぶよ幸せを
5年 田中麻里愛 おしゃかさまあまざけあびてこんにちは
5年 杉浦 蒼大 お釈迦様生まれてくれてありがとう

先日、俳句コンテストの選者である中村正幸先生に来ていただき、3年生が俳句について教えていただきました。



俳句の世界でご活躍の中村正幸先生が俳句を始めたのは42歳からだそうです。写真にもありますが、「なわとびのつづきはたまたみ長きよに」が朝日新聞に掲載され、これが俳句を始めるきっかけだったそうです。「その道を究める方は、幼い頃からその道で努力を続けている」というイメージが子どもたちにはあるようで少し驚いていました。

中村先生からは「五・七・五」や「季語」について教えていただいたり、いろいろな句に当てはまる語句を考える問題を出していただいたりしました。正解よりも素晴らしい、よい発想だというコメントももらい、子どもたちはうれしそうでした。最後に、実際に俳句を作って学習を終えました。

3年生は後期に国語で俳句の学習をすることになっています。なお、今年度予定されている人形小路菊まつり、人形小路雛めぐりでも俳句コンテストが予定されています。ご家族揃って参加してみたいかがででしょうか。

中村 正幸 (ナカムラ マサユキ)
昭和十八年愛知県生まれ。
平成元年「寒雷」入会。平成二年「寒雷」
同人。平成十二年「深海」創刊主宰。朝日
俳壇賞、第三文学の森大賞受賞。
現在、深海主宰「寒雷」同人、現代俳句協
会 東海地区副会長。読売新聞「とうかい
文芸」俳句選者。
(萬翠荘HPより)

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年7月12日 No.35

まめぞう博士のECO授業



おとうふ工房いしかわの石川さんに来ていただき、4年生が環境教育の授業「まめぞう博士のECO授業」を受けました。主な内容は以下のとおりです。

☆まめぞう博士のECO授業

①お豆腐の歴史について

- ・お鍋やボールを持ってお豆腐を買いに行った。ラッパを吹きながらリアカーを引いてお豆腐を売りに来る人もいた。
- ・便利なお豆腐パックができて買い物がしやすくなった。

②お豆腐パックについて

- ・お豆腐パックは何からできている？
- ・お豆腐パックなどのプラスチックゴミの多くが燃やしてエネルギーにするか、埋め立てられている。

③おとうふ工房いしかわでは

- ・お豆腐パックを回収してもう一度資源に戻す取組を始めている。
- ・回収したパックをペレットにして成形し、丸い定規を作りました。
- ・ペレットを使って他にも何かできないか考えている。

丸い定規はまっすぐな線は引けないし、長さも測れません。でもきっと何かの役に立つはずという石川さんの呼びかけに、「丸い形が綺麗に描ける、コースターになる」など、いろんなアイデアが出されました。一人一人がさまざまな発想をもとに使い方を考えることが大切であることを教えていただきました。丸い定規だけでなく、限りある資源についても…です。4年生の子どもたちの「自分が考えた自分にできる小さな一歩」が楽しみです。